

大分中央警察署協議会

第1回会議の開催状況

第1 開催月日

令和7年7月10日（木）

第2 出席者

公安委員長

協議会 委員 13名

警察署 署長、副署長、総務官、刑事官、地域交通官、総務課長、会計課長、
留置管理課長、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、
交通第一課長、交通第二課長、警備課長、直轄隊長 16名

第3 議事の概要

1 業務推進状況の説明

警察署から、

- ・令和7年度業務推進状況

について説明がなされた。

2 諮問事項の説明

警察署から令和7年度の諮問事項

- ・総合的な犯罪抑止対策（乗り物盗・万引き対策）

について説明がなされた。

3 諮問事項に対する意見等

自転車の盗難被害について

委員から「自転車の盗難に関して、乗り捨てが多いとのことであるが、盗まれた自転車が被害者に戻る割合はどのくらいか。また、被害者は、駅を利用する学生が多いとのことであり、その発生は日中が多いと思われるが、発生時間帯はどうなっているのか」旨の質問がなされ、警察署から「乗り捨てられた自転車が発見された場合、自転車防犯登録や被害届から被害者に返還する。その割合については、次回までに調べて回答する。また、発生時間帯については、盗まれた時間の特定が難しいことから分析ができていないが、発生月については、新入生が入学する4月、5月が多く、6月から8月にかけては減少している。これは、学校の夏休みと関係していると思われるが、新学期が始まる9月になれば、また増える状況にあることが分かっている。今後も発生状況を分析し、それに基づく効果的な広報活動やパトロール等の活動を行っていく」旨の説明がなされた。

委員から「盗んだ自転車を解体して、フリマアプリで転売するケースはあるのか」旨の質問がなされ、警察署から「転売目的ではなく、移動手段として盗み、

乗り捨てするケースが多い」旨の説明がなされた。

委員から「小学生や中学生に対し自転車の鍵かけを呼びかけ、鍵かけの意識を定着させれば、習慣化するのではないか」旨の意見がなされた。

4 委員からの意見・要望

犯罪情勢について

委員から「刑法犯の検挙率はもう少し高い数値と認識していた。大分県の数値は、他県と比べてどのような状況なのか」旨の質問がなされ、警察署から「刑法犯認知件数のうち、一番多いのが窃盗であり、そのなかでも、自転車の盗難件数が非常に多い。警察が認知した時点ですでに乗り捨てられているケースもあり、検挙率は低い。それが刑法犯全体の検挙率を下げの一因となっている。手元に資料がなく明確な回答はできないが、本県の検挙率は、他県と同等程度の数値であるとの認識である」旨の説明がなされた。